



やまもと あや
山本 綾さん

大山区でご主人、3人の子どもと暮らしている。現在は育児休暇中。日々、子育てや家事に大奮闘している。

家族と過ごす時間の大切さに気付いた

山本綾さんの1日は忙しい。子どもたちを起こした後、朝食を食卓に並べ、0歳の娘の世話をしながら2人の子どもの通学・通園準備を手伝う。日中は

もたちは自分たちが育てたキュウリやナスを食べたり、野菜の陰にいた芋虫を見つけたりして喜んでいました。

7カ月になる娘の育児に励み、16時になると年長の子どもをこども園に迎えに行く。帰宅した後は夕飯を作り、それが終われば風呂の支度をするなど、時間に追われた生活を送っている。そんな分刻みのような生活を山本さんは送っていたが、新型コロナウイルスの影響で変化が生じた。

自粛生活は本当に大変でしたが、子どもの成長を感じることができ、家族と過ごす時間が親にとっても子どもにとっても大切な時間なんだと改めて気付くことができました。これからは意識的に家族と過ごす時間をつくろうと思います」と笑顔で思いました。

「この自粛期間は、買い物や家族での外出が自由にできなかったことで親も子どもたちもストレスが溜まりましたね」と山本さん。そんな中で良いこともあったという。「小学校やこども園が休みになり、子どもと一緒に家庭菜園を始めました。子ど



▲休日にピザ、たこ焼き、パン、クレープなどを子どもと一緒に手作りしたと話す山本さん。

マイナスだけじゃなかった 自粛期間がもたらした副産物

3月から5月にかけて学校では休校が続き、職場でもマスク着用が義務付けられた。不要不急の外出はせず、親族や友人と会うことも控えなければならなかった。一方で、何もできない、つまらない、ストレスがたまるだけと思っていた時間の中にもプラスがあった。

友達や学校生活のありがたみを再確認した

鈴木彩水さんは、部活動で汗を流し、友達と話すことを学校生活の楽しみにしている。しかし、この生活は3月3日から学校が休校になり一変した。

自宅待機の期間を「友達と会

えなくなったことが悲しかったですね。また、4月に高校3年生になり、就職活動を目前に控え、先が見えないことに不安を感じていました。そんな中、学校がさまざまな取り組みをしてくれたので充実した時間を過ごすことができました。その一つ

がスマートフォンやパソコンを使って複数人の顔を見ながら会話ができる『ZOOM』というアプリを使った取り組みです。毎朝、学校の始業時間と同じ8時30分から担任のSHRがあったことや、就職活動の面接対策をしてもらえました。

各教科で課題も出されていた



すずき あやみ
鈴木 彩水さん

池新田高校に通う3年生。部活動はバドミントン部に所属。得意な教科は理科。自身を「やらなければならないこと、最後までやり遂げることができる性格」と話す。

のですが、初めのうちは自分自身で勉強の計画を立てることが大変でした。学校の時間割に合わせて机に向かうようにしたこと、計画的に取り組むことができました。

この期間を経験したことで、普段学校に通っていたことや先生の授業のありがたみを感じることができました。今後は、これまで以上に勉強や遊び、友達との関わり合いを大切にしていきたいです」と振り返った。



▲計画して家庭学習に取り組み、愛犬と触れあうなど心休まる時間もつくることができたという鈴木さん。